

## ◆ ◆ 京大病院産科婦人科通信 ◆ ◆




京都大学医学部附属病院 産科婦人科  
〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町 54  
TEL : 075-751-3269 FAX : 075-761-3967  
Web サイト : <https://obgy.kuhp.kyoto-u.ac.jp/>

## 医療機関各位

酷暑の候、貴施設におかれましてはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

京都大学医学部附属病院 産科婦人科（以降、当科）は今年度も新しい専攻医、医員が増え、心新たに地域医療、高難度医療、先端医療を推進するべく取り組んでおります。当科の近況、取り組み、活動などをお知らせする「京大病院産科婦人科通信」を送付させていただきます。

手術支援ロボットは Da Vinci、hinotori に続き、今年 2 月から hugo も導入され、ロボット手術が増えております。また、今年度から順天堂大学から岡田先生が戻りました。子宮筋腫に対する腹腔鏡手術下筋腫核出術など良性疾患に対する手術を多く経験しております。当科の取り組みのコーナーで良性疾患に対する低侵襲手術をご紹介させていただきます。悪性疾患とともに良性疾患も積極的にご紹介していただき、ロボット手術や腹腔鏡手術により皆様のご期待に沿えるように努力をさせていただきます

セカンドオピニオン外来は多くのご施設からご紹介をいただき、お陰様で増えております。ご協力をいただきありがとうございます。本号では、セカンドオピニオン外来の取り扱いについて再度ご紹介をさせていただきます。

今後も、当科の活動を報告させていただき、各医療機関との連携を強化させていただきたく存じますので、よろしくお願ひ申し上げます。

京都大学医学部附属病院 産科 婦人科  
京都大学大学院医学研究科医学部 婦人科学産科学  
診療科長・教授 万代 昌紀  
講師・外来医長 山口 建



**KU:P** 京都大学医学部附属病院  
KYOTO UNIVERSITY HOSPITAL

# 婦人科 Reproduction Surgery、良性疾患手術への 取り組み

(文責：岡田 由貴子)

皆さま、こんにちは。京都大学婦人科学産科学教室 岡田由貴子と申します。

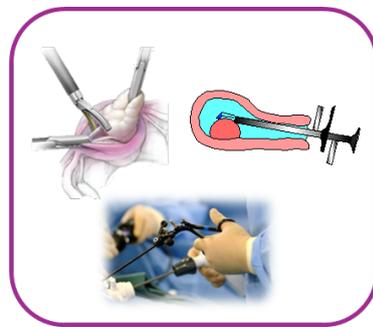
私は、ご縁があり2018年より順天堂大学医学部附属病院順天堂医院で勤務しており、この春、京都大学に戻って参りました。

順天堂医院では、女性低侵襲外科・リプロダクションセンターに所属し、日々、多くの患者様の診療・手術をさせて頂きました。この、女性低侵襲外科・リプロダクションセンターのコンセプトは、

- ① 器質的疾患を持つ女性に対して低侵襲な外科治療を行い、女性の Quality Of Life を向上させる
- ② 自然妊娠のサポートから高度な生殖補助医療(Assisted reproductive technology: ART)まで、幅広い不妊治療を行う
- ③ 不妊原因の根本治療としての低侵襲手術と不妊治療との組み合わせにより、妊娠率を向上させる
- ④ 腹腔鏡手術のハイボリュームセンター(良性内視鏡手術件数約 700/年)の一つとして、安全な手技を伝承し、技術力の高い術者の育成を目指すこと、

となります。

特に、③に関しましては、生殖外科(Reproductive Surgery)という考え方のもとに、不妊治療のみでは、妊娠に至らない子宮筋腫や子宮内膜症を合併した不妊症の方に、この Reproductive Surgery(具体的には、腹腔鏡下子宮筋腫核出術、腹腔鏡下子宮内膜症手術、子宮鏡手術な



**Reproductive Surgery**  
(子宮筋腫核出術、子宮内膜症手術、  
子宮鏡手術など)

OR  
AND



**不妊治療**  
(タイミング法、人工授精、ARTなど)

ど)を併用して妊娠率の向上に努めていました。この場合、患者様の年齢・卵巢予備能を評価し、①手術を行ってから不妊治療を行う②受精卵(胚)を凍結してから手術を行い、術後胚移植を行うといった選択肢を、患者様の症状・疾患に応じて、より妊孕性の向上につながる治療法を日々、検討していました。

京都大学においても、京都大学本来の低侵襲手術・高度生殖医療の安全性・技術力に加えて、ハイボリュームセンターでの経験・手法を生かし、妊娠を希望される患者様、また、妊娠希望がなくとも、ライフステージ別の女性特有の器質的疾患に対して、すべての世代の患者様の QOL 向上につながる治療・手術を提供していく所存です。もちろん、Reproductive Surgery をはじめとする手術のみを当科で行うことも可能ですので、是非、ご紹介を検討頂けますと幸いです。

今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

京都大学婦人科学産科学教室 岡田由貴子

(文責：山口 建)

令和5年1月にセカンドオピニオン外来を開設後、皆様のご協力により現在まで約40件の問い合わせがございました(図)。ありがとうございました。患者さんからご希望の連絡があった後に、当科で受け入れ可能か判断いたしますので、遠慮なく患者さんにはご紹介を頂ければと思います。病理プレパラートを送付いただける施設が散見されますが、病理診断のセカンドオピニオンは当科では行っておりませんので、下記を再度ご確認くださいと思います。

**対象：婦人科悪性疾患、一部の良性疾患**

**日時：月曜日午前（主に万代教授が対応）**

**水曜日13:30～14:30**

**費用：4万5千円+消費税（自費）**（今後変わることもございますので病院ホームページを参考にしてください）



セカンドオピニオン外来の運用について再度お知らせいたします。

● **転院の希望の患者さんは受け付けておりません**

当院での治療を受けた方が患者さんにメリットがあると考えられる場合以外は、基本的には転院を勧めておりません。セカンドオピニオン受診後に患者さんが当院への転院を希望された場合は後日受診が必要となります。転院を希望しない患者さんはセカンドオピニオン外来をご利用くださいますようお願いいたします。

● **病理診断のセカンドオピニオンは当科では行いません**

当科でのセカンドオピニオン外来は紹介元の病理診断を前提に話をさせていただきます。病理診断の意見を希望される場合は、京都大学の病理診断科・病理部の病理コンサルテーション（自費）をご利用ください。ただし、病理コンサルテーションの診断料は5,200円となり、免疫染色を追加する場合は追加料金がかかります。ご費用を紹介元の病品が負担するのか、患者さんが負担するのかなどは紹介元でご判断ください。もしくは、紹介元の病院から直接から京都大学の病理診断科・病理部へ保険診療内での病理診断の依頼をされると費用の問題はないと思われる。

セカンドオピニオン外来の流れは以下になります。

1. 患者および相談者からセカンドオピニオン外来申込書類を、必要事項を記載のうえ地域医療連携室に提出いただきます（資料等は病院ホームページに掲載しております）。  
病院ホームページ：<https://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/outpatients/reservation.html>
2. 地域医療連携室に届いた申込書類を、当科でセカンドオピニオン外来を実施するかどうか、受入れの可否について検討致します（概ね3日以内）。
3. 受入れが「可」か「不可」を患者および相談者へ報告いたします。受入れが「可」の場合は、かかりつけ医に診療情報提供書および検査・画像データを作成いただき、地域医療連携室へ送付をお願いいたします。
4. 当科において診療情報提供書および検査・画像データを確認し、地域医療連携室から患者および相談者へ、セカンドオピニオン外来の候補日時をお伝えし、日程について検討いただきます。
5. セカンドオピニオン外来を実施後、所見書を作成し、患者および相談者へお渡します。もしくは後日作成して地域医療連携室から患者および相談者へ郵送いたします。

京都大学医学部附属病院 産科婦人科  
外来医長 山口 建／調整担当 嶋村 卓人

